

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4091500639, 社会福祉法人あらぐさ会, グループホームしおさい, 福岡県大牟田市岬2858-1, 令和5年12月22日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・出来る限り役割(家事や簡単作業)を持っていただき生活の質を保つような支援を心がけています。
・毎月、誕生会やイベント事で、生活の中に楽しみを持っていただけるようにしています。
・法人内事業所・連携先医療機関・地区の包括支援センターと協力し、生活の中での困難な点(買い物・ごみ捨て・スマホの使い方)を地域で支えあえるように、マルシェを不定期で開催、そこに御利用者も参加し地域とのつながりを深めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 公益社団法人福岡県介護福祉士会, 福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階, 令和6年1月27日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園風景が広がる住宅地に立地している。令和2年に運営法人が幼児保育から介護事業まで幅広く運営する社会福祉法人に引き継がれている。職員は法人全体での年間研修計画に沿って定期的に学ぶ機会があり、福利厚生もより充実して活き活きと就労出来ている。事業所隣には地域交流施設の併設があり、コロナ禍前は地域住民のサークル活動に事業所利用者も参加し交流の場となっていたが、現在はサークル活動が中止されているため、近くにある同法人の交流センターでの集まりに職員と共に参加している。1ユニット6名の少数定員で職員は、利用者一人ひとりの特性を活かし、出来る家事等にも参加してもらっている。事業所内は家庭的な雰囲気、どの部屋も明るく清掃が行き届いている。管理者、職員は利用者に、我が家のように笑顔で過ごしてもらえ事業所を目指しており、今後益々期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時に唱和を継続し、職員の意識づけの習慣化を行っている。	理念は事業所開設当初からのものを継承している。運営母体の法人が変更になった際にも、理念は継承してきている。利用者の心身状態の変化や勤務する職員の入れ替わりなどもあるところで、理念について作り変えるまでには至っていない。	地域密着型サービスの利用者や職員は入れ替わりがあることを踏まえ、日頃の支援の拠りどころとなる理念は、折に触れ現状に即しているか見直す機会を持つことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での交流はある。その他、大牟田市の事業である転倒予防教室・はにかみ教室を再開中。	コロナ禍以前は敷地内の地域交流施設で行われていた、住民主催のサークル活動に利用者も参加していたところ、今は利用が減少している。近くの同法人施設の交流センター行事に職員と利用者が参加し地域住民との交流を図っている。住民から、家庭菜園で採れた野菜のおすそ分けもあり、交流の機会としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人の事業所と連携して、認知症の勉強会などを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括・地域の方の意見は職員で共有し、実践に努めている。	地域からは公民館長、民生委員の参加があり、都合が合えば家族や利用者の参加する機会もある。2ヶ月毎に事業所で開催している。事業所から利用状況・活動・ヒヤリハット等の報告を行い、委員から意見を聞いている。ヒヤリハット報告書に挙げる基準を設けて危険防止に繋げてはどの意見があり、職員で検討し業務に活かしている。地域の情報や行事等の把握機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡が密とまでは言えないが、状況の変化や必要事項の報告はすぐに行っている。	管理者が市の担当者に業務に必要な情報を確認したり、書類手続きの方法を相談する等、日頃から連絡を取っている。包括支援センター職員とは、事業所の空き情報を連絡しあったり、交流センター行事案内のお知らせを住民へ周知依頼のお願いしたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人・事業所にて研修を行い、身体拘束を行わないケアに努めている。	年2回法人全体研修、年1回事業所内研修を実施し、全職員にレポート提出により理解の確認をしている。職員は身体拘束の弊害を理解しているが、とっさに発する言葉が利用者の行動を抑制していないか反省する場面もある。相応しくない場面を見つけた場合は、管理者や主任から声掛け内容の確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人・事業所にて研修を行い、虐待についての知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人・事業所にて研修を行い、権利擁護に関する制度の理解に努めている。	事業所内で管理者が日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明をしている。プライバシー・権利擁護の研修が年1回法人全体で実施されている。活用する事例はなく、すべての職員の理解が十分とは言い難い状況がある。	必要と思われる際にはスムーズな橋渡しができるように、権利擁護に関する制度の理解と周知に向けて、パンフレットの設置など検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を十分に説明したうえで、契約していただくように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を管理者・主任としており、ご家族からの意見は職員へ周知するように努めている。	管理者、主任は利用者との会話の中で意見を聞き、家族の面会時に積極的に意見を聞き、面会の少ない家族へは電話や書面で報告をする際に聞いている。面会や外出についての意見があり、法人全体での感染症予防対策の条件を説明した上で、必要な場合は随時相談を受け対応するようにしている。外部機関への意見・苦情を表せるポスターの掲示もある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議に向け、意見や提案を集約し、話し合いの場を設けている。	管理者は日頃から職員の意見を聞く姿勢があり、話がしやすい。月1回職場会議で職員から車いす利用者が増え、食堂テーブル配置変更の意見を出し、安全な動線確保のテーブル配置に変更している。行事企画等の職員意見も、介護の中で検討し、採用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を常時閲覧できるようにしている。個別の面談はいつでもできるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	定年制度はあるが、延長期間もあり性別や年齢などによる制限はなく、職員もその状況により勤務日数の調整を行う等の配慮をしている。	面接は法人代表と管理者が対応し、30歳代から70歳代と幅広く性別関係なく採用している。働き方も職員の生活に合わせた勤務態勢がとられ、希望休暇も取得しやすい。事業所が必要とする資格取得研修や、研修参加は勤務扱いとしている。職員は特技を行事等で活かす機会もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常的に人権を尊重した運営を行っており、法人などの学習会に参加した際は、伝達学習を行っている。	年1回法人全体研修に参加している。利用者の呼称はさん付けで統一し、敬意を持った声掛けを心掛けている。職員の言葉かけなどで相応しくない場面を見受けた時は、管理者や主任から、わかりやすく尊厳あるケアについて説明をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加は積極的に行っており、参加者は事業所での伝達学習を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業種や医療機関との交流機会は可能な限り確保できるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対して傾聴を心がけている。本人の訴えが難しい方においてもご家族からの情報を基に支援し、結果の報告を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族および担当ケアマネなどからも情報を収集し、支援が必要な部分を提案する中で、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の都合に合わせ、グループホームが適切と判断した場合は、最大限の配慮を持って受け入れる		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力にあわせて、グループホーム内で役割を持って頂くように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの生活を毎月、お手紙で郵送している。生活に必要なものはご家族が対応できる限り、支援していただくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの傾聴および、写真や思い出の品があれば持参していただくように努めている。	面会が居室でできるようになり、職員は、限られた時間ではあるが気兼ねなくゆっくり談笑できるように支援している。携帯電話を所持する利用者へは、電話操作を職員が支援し知人や家族との会話を楽しませている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のつながりが出来るようにレクなどに力を入れている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別に連絡をする機会は少ないが、退去後に再び入居されるなどの例はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り意思の疎通を図り、家族も含め意向確認に努めている。	管理者や主任は家族の面会時や電話等で希望や意向などを聞き取り、職員は日々利用者 と接する際コミュニケーションや表情・仕草等から思いの把握に努めている。聞き取った内容や情報は申し送りノートで共有し、月1回の職員会議でも話し合い、利用者の希望に沿った生活の支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から折りに触れて生活歴等を伺い、ケアの内容に反映できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録用紙にて把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時に限らず、状況の変化があれば計画書の変更を行っている。	ケアマネジャーが、職員や医療関係者から意見を聞き毎月モニタリング評価を行い、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。職員は介護計画に沿ったケアに努めているが、職員に介護計画素案作成から参加してもらうことで、より現状に即した介護計画となるように、今後職員の利用者担当制の導入を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録と職員の意見などで都度、ケアの内容は変更している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や地域事業への参加などに努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状の地域資源の中では、限られており、地域事業に参加できるご利用者は、暮らしを楽しんでいる状態である。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9割のご利用者が医療連携先である、みさき病院と訪問診療の契約をされており、適切な医学管理ができています。	毎週協力医療機関の看護師が訪問し記録物を確認、職員と情報交換を行い、事前に医師へ利用者の状況が報告され2週間毎の訪問医療に繋げている。希望者には訪問歯科があり、他科受診は、主治医より紹介された病院に家族が通院介助している。受診後は医師間で治療情報の連携があり、生活上の留意点は家族より口頭で説明を受け職員間で共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の情報交換を行っており、相談は24時間できる状態である。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する場合の病院の希望を聞いている。また、帰設受け入れ可能な状態、介護で対応できる範囲を都度つたえている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の看取り指針の説明を行う等、利用者や家族への周知を図っている。終末期になった時は医療職からの助言や家族へ経過報告を行うようにしている。	重度化や終末期になった場合は、主治医より家族に説明があり、その都度事業所の看取り指針の説明をしている。緊急時には医療機関と24時間連携が取れ、職員間は連絡網で共有対応できる体制がある。年に1回、管理者が職員へ看取りの勉強会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の学習会をおこなっている。早急に対応できるよう利用者事に緊急用のファイルを作成している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	学習会および実践を行っている。避難場所先との連携もとれている。	年に2回、夜間と日中想定火災避難訓練を開催している。近隣の地域住民の参加までは得られていない。備蓄品と水害時のライフジャケット等を準備している。近隣施設との協力関係は築いているが、協定書を交わすまでには至っていない。海岸に近い地域に立地しており、地震や水害等を想定した避難誘導の行動マニュアル作成までには至っていない。	有事の際は、人的支援が必要となるため近隣事業所や地域住民との協力体制のあり方について今一度検討する機会を持つことが望まれる。スムーズな避難誘導行動マニュアルについても早めの準備を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会などにて、尊重とプライバシーに関しての知識の向上に努めている。	年1回、法人で学習会を行っている。職員会議等でも日々の対応を振り返り自分だったらどうだろうかと置き換えて話し合う機会を設け、職員はプライバシーに配慮した声掛けや、対応に日々努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には傾聴に努め、本人が決定できるような声かけに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望の把握は出来ているが、事業所の大枠(入浴・食事など)は、事業所の都合がある。就寝時間は、本人のペースで支援できている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて、髪型、目やになどは支援し、本人の好みも考慮し洋服などは職員から提案することもある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	注ぎ分けなど出来る範囲で役割を持って頂く。禁忌や嗜好にも柔軟に対応できている。	主食は事業所で炊飯し、副食は配食サービスを温めて利用している。利用者はできる範囲で洗い物や副食の盛り付けなどを職員と共にしている。利用者の誕生日には利用者と職員でスポンジケーキにデコレーションを行う等、楽しみを持てるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにより、栄養のバランスはとれている。水分に関しては、嗜好にもあわせて摂取していただくようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施。 9割のご利用者が訪問歯科を利用し、最低限のケアは出来ている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位が出来る限り、トイレの誘導を行っている。	排泄の意思表示がない場合には、チェック表を確認しながらトイレ誘導を行ったり、利用者の動作などのサインを見逃さないようにトイレでの排泄を促している。排泄のパターンを把握し誘導を繰り返すことで利用者自らの意思表示が増え、パツ使用数が減り、外せるようになったじれいがある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・運動を基本としているが、必要に応じて担当医の指示のもと下剤でコントロールしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間をある程度、固定しているが、入浴日の変更など柔軟に対応はしている。	毎日入浴の準備ができており、週に2回入浴ができるようにしている。体調がすぐれない時や拒まれる場合は日にちを変えて対応している。入浴前に浴室の温度管理を行い、利用者の好みの湯温に合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるようにしている。シャワー浴の場合にも、浴室内の温度管理に特に配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子を観て、休息の為、居室に誘導するなど出来ている。ホールで傾眠させたまなどは行わないようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に内服薬の変更があった際は、経過を記録するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行う、合唱・体操、施設周囲の散歩等は実施している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただくため、花見などの外出はしている。日常的に散歩は限られた利用者になっている部分はある	公用車はなく、散歩で近隣の花見に出かけたり、交流センター行事お誘いのチラシ配布の時に利用者と一緒に地域のポスト投函を行っている。気候の良い時期には、事業所前で食事やおやつを食べたり、日頃はペランダで日光浴などを楽しんでもらえるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣に商店が無く、買い物支援等を行えていない為、殆どの利用者はお金を保持しておらず、使用していない。※移動販売で買い物が出るように検討中		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される限り対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を各所に配置し、快適な環境が保たれるよう配慮し、必要に応じエアコンや加湿器等を使用している。季節ごとの飾りなどを行っている	リビング兼食堂は温度管理がなされている。リビングに続く畳の部屋もあり、家庭的な雰囲気となっている。季節感のある飾りをも配置している。トイレ等の排泄物の臭気についてもしっかりと管理しており、居心地よく過ごせる空間作りとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性等を考慮し、食堂の座席はその時々で変更し可能な限り交流を図る工夫をしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に家具調度品等を持ち込んで頂き、居室の環境が快適に保てるように努めている。※カラーボックスなど場合の方も居られる。	ベッドはレンタルの方と持ち込みの方がある。自宅で使い慣れた掛け布団などの寝具やタンスなどが持ち込まれ、利用者一人ひとりの状態に合わせた配置となっている。各部屋に室温計が設置され利用者が居心地よく快適に過ごせる配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で安全に配慮した整備をしている。必要な個所へ手すりを設置している。基本的には自助努力が難しくなるまで支援はしないようにしている。		